

船舶事故等調査報告書

平成25年2月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012門第141号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年8月21日 08時05分ごろ
発生場所	福岡県 ^{かんた} 苅田町苅田港 苅田港北防波堤灯台から真方位250° 2,200m付近 (概位 北緯33° 47.6′ 東経130° 59.4′)
事故等調査の経過	平成24年10月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 ジェイケイ、101トン 132735、株式会社ジェイ・ケイ・ライン B バージ JK-1、約1,287トン なし、株式会社ジェイ・ケイ・ライン
乗組員等に関する情報	A 船長A、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	A プロペラ翼に曲損 B なし
事故等の経過	A船は、船長Aほか4人が乗り組み、鉦滓約1,500tを積載したB船を押し、苅田港本港4号岸壁（以下「苅田港本港」を冠する岸壁名称については、これを省略する。）に入船左舷着けで着岸するため、4号岸壁の北側に隣接する5号及び6号岸壁前の水路を両岸壁から離れて西側に寄って南西進した。 船長Aは、5号岸壁の前を通過した頃、B船の船首を左方に向けたところ、東風を受けて右舷方に圧流され、A船の船尾部が水路西側の浅所に接触した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 3 海象：潮汐 上げ潮の中央期、潮高 約230cm（苅田港）
その他の事項	A船の喫水は、船首約2.75m、船尾約4.20m、B船の喫水は、船首約3.90m、船尾約4.10mであった。 海図（W129）によれば、4～6号岸壁前は、幅約240mの水路となっており、同岸壁の前面200m付近から西側には、水深0.9m～3.4mの浅所が岸壁長とほぼ同じ範囲で存在する。 船長Aは、揚げ荷後に出航する際、岸壁前の水路幅が狭いため、錨を使用してB船の船首を岸壁から離れたのちに回頭して離岸する必要があることから、可能な限り岸壁と垂直方向に最低4節の錨鎖を繰り出しておけるよう、入航時は、できる限り着岸岸壁の反対側に寄って

	水路を南西進し、同岸壁に向かって左転したのちに投錨することと していた。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり A船は、B船を押して苅田港に入航する際、錨を使用して離岸する ので、投錨に備えて水路の西側に寄って南西進し、5号岸壁を通過し た頃、着岸予定の4号岸壁に向けて左転したところ、東風を受けて右 舷方に圧流されたことから、A船の船尾部が水路西側の浅所に接触し たものと考えられる。
原因	本事故は、A船が、B船を押して苅田港に入航する際、錨を使用し て離岸するので、投錨に備えて水路の西側に寄って南西進し、着岸予 定の4号岸壁に向けて左転したところ、東風を受けて右舷方に圧流さ れたため、A船の船尾部が水路西側の浅所に接触したことにより発生 したものと考えられる。